

奈良県文化教育記者クラブ加盟報道機関 御中

奈良教育大学が、科学と地域をつなぐ 「ならサイエンスプレパーク」を開催

奈良教育大学では、2026年11月15日(日)、「大学の“おもしろい！”に会いに行こう」をテーマに、「ならサイエンスプレパーク」を開催します。

本イベントは、奈良教育大学が構想する「科学館」を、地域の皆さまとともにつくっていくためのイベントです。

会場には、本学オリジナルの体験型展示などがならびます。

奈良の自然や文化を題材に、大学での研究や学びを、子どもから大人までが楽しめる「体験」へと変換。

来場者は、展示を見て終わるのではなく、「やってみる」「よく見る」「考える」「誰かと話す」ことを通して、自分なりの発見や新たな問いを見つけていきます。

さらに、理数教育研究センターのSST（スーパーサイエンスティーチャー）プログラムで学ぶ大学生が企画したワークショップも実施します。学生自身が「科学のおもしろさ・身近さをどう届けるか」を考え、企画・実践します。

- ▶ 研究者が長い時間をかけて発見したこと
- ▶ 学生が学びながら発見したこと
- ▶ そして、来場者がこの日、発見すること

—大学では、発見が次の発見へとつながっていきます。

教科書には載っていない「おもしろい！」に、ぜひ会いに来てください。

開催概要

- 日 時 2026年11月15日(日) 11時～16時
- 会 場 奈良教育大学 山田ホール
- 入場料 無料
- 主 催 奈良教育大学 理数教育研究センター

*同日に「青少年のための科学の祭典2026」奈良大会を、奈良教育大学にて開催しています。詳細は <https://sites.google.com/view/ksnara/>

奈良教育大学「ならサイエンス・モール」

奈良教育大学では、大学ならではの「研究」「教育」「人」を生かし、子どもから大人までが科学を楽しめる場をつくることを目指して、科学館構想を進めています。その基盤となるのが、学内外の施設や実習園(農地)、実習林(森林)などからなる「ならサイエンス・モール」です。この場で、科学を「学ぶ・教える・伝える」人々が相互に育ち合う循環モデルの実現を目指しています。

<https://www.nara-edu.ac.jp/NESM/nsm.html>

今回の展示内容をご紹介します

シカの鳴き声？ブラックホールの音？

この音は、シカの鳴き声？ それともブラックホールの音？
宇宙の研究をしている信川正順先生によると、実は、
「宇宙の音」は存在していて、その音から、ブラックホールの
衝突の瞬間もわかるらしいのです。

私たちは、聞き分けることができるでしょうか？

協力：一般財団法人奈良の鹿愛護会



Credit: EHT Collaboration

奈良のキタキチョウ、ひみつのラブラブ大作戦

奈良に生息する「キタキチョウ」。

昆虫を研究している小長谷達郎先生によると、実は、モテる
キタキチョウと、そうでもないキタキチョウがいるらしいのです。

私たち人間には、モテるキタキチョウがわかるのでしょうか。

そもそも、どんな違いがあるのでしょうか？

＊小長谷先生が小学2年生のときに作成した昆虫標本(自由研究の宿題)も特別公開します



シカ・クイズ！

奈良といえば「シカ」。

「シカのフンはどっち？」「シカの視力はどっち？」・・・

「人と自然のかかわり」を研究する辻野亮先生が集めた資料や
情報から生まれたクイズにチャレンジして、奈良のシカ(ニホン
ジカ)に詳しくなろう！



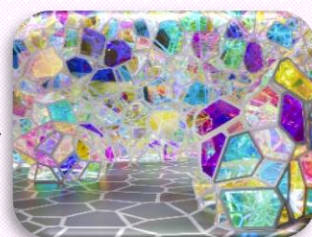
奈良は何色に見える？

岳川有紀子先生が大好きな「ひかりと色の道具」を使って、
奈良の風景や身近な景色をのぞいてみましょう。

大阪・関西万博「大阪ヘルスケア」パビリオンのタカラベルモント
株式会社のオブジェは、どんな風に見えるかな？

いつもとは違う色や、思いがけない光を見つけてみて！

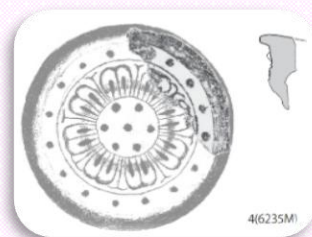
＊タカラベルモント株式会社のオブジェの一部(現物)を特別展示します(協力：タカラベルモント株式会社)



奈良のかたちを考えてみよう

数学の舟橋友香先生と、文化財の青木智史先生。一見、遠い関係に見える二つの分野ですが、実は「限られた情報から全体を考える」という共通点があります。

「本当はどんな姿、形だった？」を、数学のちからで考えてみよう！



絵画素材のひみつ

絵画は、紙や布、木など、さまざまな素材の上に描かれています。奈良県立美術館所蔵の3作品の拡大画像を、じっくり見てみよう。「表面はどんな感じ？」「絵具はどんなふうについている？」…材料に注目して絵を見てみると、どんな発見があるかな？



*本展示は共同研究プロジェクトから生まれました(奈良教育大学の宇治広隆先生、池田藍子先生、奈良県立美術館の三浦敬任学芸員)

展示を企画するにあたって

大阪の科学館で21年間、学芸員として科学の新しい切り口や見せ方、伝え方を考え、実践してきました。本学では、学校教育とインフォーマル教育をつなぎながら、「科学のおもしろさが伝わる方法」や「教えない科学」などについて、皆さんとともに考え、挑戦しています。

「教育」は「教えること」だけでなく、「学ぶための環境をつくること」でもあります。

今回のプレパークでは、大学の先生方の専門的な内容や、研究に込めた思い・おもしろさを受け取り、そこから展示のアイデアを生み出しました。構想するにあたって、特に大切にしたのは、「大学らしさ」「奈良らしさ」「問いと対話」「体験と試行錯誤」の4点です。

心や頭の何かが動き出す…そんな時間を過ごしていただけたら嬉しいです。

展示プランナー 岳川有紀子(奈良教育大学 理数教育研究センター 特任講師)

実践研究へのご協力をお願い

本プレイベントは、奈良教育大学が構想する科学館の一步であるとともに、大学が担う地域の理数教育の在り方の実践研究の場としても位置づけています。そのため、来場者のみなさまにアンケートへのご回答や、行動調査等へのご協力をお願いする場合がございます。ご理解とご協力をお願いいたします。

学生によるワークショップをご紹介します

今回のワークショップでは、SST（スーパーサイエンスティーチャー）コースを受講する学生が、これまでの学びや実践を生かして考案したプログラムをお届けします。曽爾村でのサマースクールで実施した授業をアレンジしたものを中心に、学生ならではのアイデアを取り入れた、多彩なワークショップを実施します。

目指せ！！一筆書きマスター！！

「この形、一筆書きできるかな？」

紙からペンを離さず、同じ線を二度通らずに、全部の線を一回ずつ通ってみよう！

一筆書きのコツを探しながら、形の中に隠れた「できる・できない」の算数のひみつを見つけてみよう！

企画・実践 下野 子藍（奈良教育大学 数学教育専修 2回生）

お腹いっぱいになれるのはどっちだ！

目の前にあるのは、形の違う2枚のピザ。

「どっちのほうが大きい？」「せっかくなら、たくさん食べられるほうがいい！」

見た目だけでは分からないピザの大きさを、算数を使ってくらべてみよう！

企画・実践 相馬 心（奈良教育大学 数学教育専修 2回生）

かたい水とやわらかい水って？

見た目はどちらも同じような水。でも、飲みくらべてみると…「あれ？ちょっと味が違うかも？」。さらに、石けんを入れて振ってみると…。

ふだん何気なく飲んでいる「水」を、ちょっと科学の目で見てみることで、身近なところにも「なぜ？」が隠れていることに気づいてもらえたらうれしいです。

企画・実践 渡邊 良大（奈良教育大学 理科教育専修 2回生）

この他のテーマやワークショップの開催スケジュール、対象年齢などの詳細はホームページに掲載します

奈良教育大学 新理数プログラム

Super Science Teacher 養成

SST（スーパー・サイエンス・ティーチャー）プログラムは、小・中学校・高等学校から大学までの理科・数学を一貫して深く学び、理科・数学を教え、伝え、楽しむ力を備えた人材を育てるコースです。専門的な学びと教育実践を通して、科学的な思考力や科学の楽しさを見出す力、伝える力、授業をつくる力、協働する力を育みます。

<https://www.nara-edu.ac.jp/NESM/sst.html>

奈良教育大学 山田ホールへのアクセス

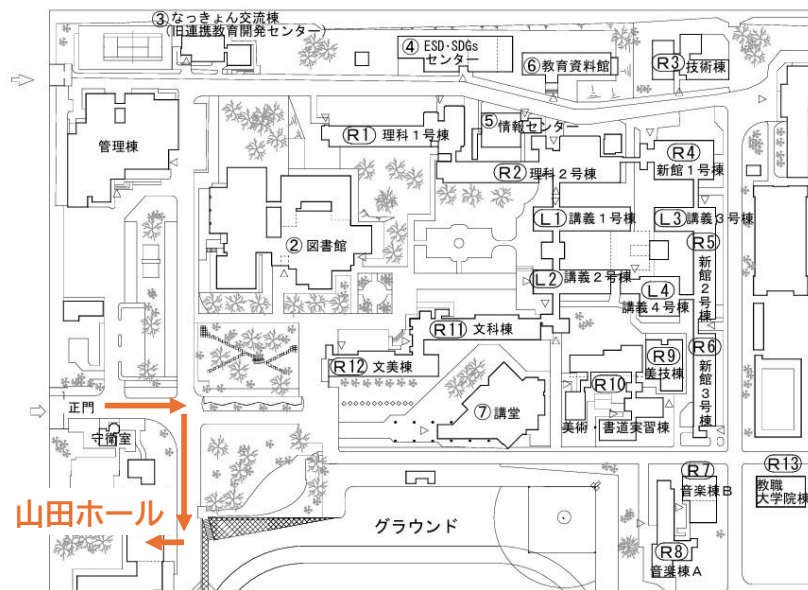
■ J R奈良駅から

「高畑町」まで、【東口】2番のりばから市内循環・外回り、高畑町で約15分

■ 近鉄奈良駅から

「高畑町」まで、1番のりばから市内循環・外回り、中循環・外回り、高畑町で約10分

＊本学へは公共交通機関をご利用ください（取材の際は事前にご相談ください）



本リリースに関するお問い合わせ先

奈良教育大学 理数教育研究センター事務局

電話/FAX 0742-27-9333 (平日 9:00-17:00)

E-mail nesm@nara-edu.ac.jp

(発信元)

奈良教育大学 総務課 秘書・広報係

電話 0742-27-9104

E-mail kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp